

2024（令和6）年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2024年3月8日）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
瀬戸寿一	D	情報化とまちづくり	前期は文献講読による調査手法の習得とWebGIS等による基礎分析を行う。夏休みまでに調査計画の立案や基礎的な資料分析を主にグループ単位で徹底して行う。現地調査は9月～10月中旬までの期間（3泊4日）に静岡市を対象として、まちのデジタル化に着目した情報収集やインタビュー調査を実施する。現地調査後は地図化を通じた空間分析を行い、12月までに報告書を作成した上で発表会を行う。	水・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	岩国市の人文地理（商業・観光・交通など）	山口県岩国市	10月（3泊4日）	岩国市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読の後、グループで調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）を行なう。現地調査後は報告書を作成する。	水・5
西山弘泰	B	地方都市におけるエリアリノベーション	岡山県岡山市	5月下旬、9月上旬、（10月下旬）	空き家の解消や中心市街地の活性化の手法としてエリアリノベーションが注目されている。本調査法では、エリアリノベーションが展開されている岡山県岡山市を調査対象地域とし、その実態や課題を検討する。調査は、①各種文献・資料、統計などにより岡山市やその周辺地域の現状を把握、②調査計画を立案、③現地調査の実施（9月上旬）、④調査結果のとりまとめ・分析、⑤報告書の作成、の順に進めていく。夏休み中も、調査の準備やとりまとめのために頻りに大学に来てもらうので、アルバイトや部活動の時間を調整すること（ゼミ活動を優先してもらう）。また、ゼミの時間以外にサブゼミの時間を設けるので、そちらにも出席するように。	水・3
須山 聡	D	奄美大島の地域性	鹿児島県宇検村阿室・屋鈍集落	7月5～11日	地域調査の計画立案・現地調査・報告書の作成を実習する。今年度は奄美大島宇検村阿室・屋鈍集落を対象に居住継続のための「集落点検」を実施する。奄美の集落はいずれも高齢化と人口減少に直面しているが、集落点検は、集落の維持・存続のための有効な具体案を住民との協働のワークショップによって考える、地理学の実践の場である。これまで、提案した内容のいくつかは実行され、集落に新たな活気をもたらしている。	木・3
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村と周辺地域	6月に4泊5日を予定	主な研究テーマは、農山村の暮らしの特徴と変容、6次産業化の進展、都市・農村交流など。課外の時間も使って、文献講読から地域調査の計画・実施、報告書作成まで取り組む。月曜1限の「村落地理学」を未履修の人は、今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3
土谷 敏治	F	地方都市の公共交通の課題と展望	鹿児島市と周辺地域	10月中旬	地方都市の公共交通問題を中心に、人口、産業、土地利用等に関する文献の講読を通じて、調査計画の立て方、調査・研究の方法、結果の分析方法、論文の書き方などを学習する。その成果を踏まえて、実際に調査・研究計画の立案し、資料の収集、現地調査、調査結果の分析、調査報告作成を行う。現地調査の対象地域は、市営バスの民間委譲が進められている鹿児島市と周辺市域を予定している。	火・5

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
鈴木重雄	A	中部山岳の自然環境	長野県松本市上高地・乗鞍高原	6月上旬の2泊3日	槍ヶ岳、穂高岳から流れる梓川とその支流による侵食と堆積によって作られた上高地の地形と植生、火山活動によって形成された地形上で行われた放牧によって形成された二次林の広がる乗鞍高原を訪れ、観察と調査を行う。ツーリズムに起因する諸問題や高冷地での農村形成などの人文現象に関心を持つ学生も受講して欲しい。	前期金・4
平井幸弘	D	火山地形と災害、ラムサール湿地のワイズユース	北海道渡島駒ヶ岳及び大沼地域	10月下旬に2泊3日	駒ヶ岳の地形と過去の噴火災害、ラムサール条約登録湿地である大沼の自然と保護、エコツーリズムなどに関し、関係機関・団体・個人を訪ね、さらに地形・水文・植生・景観調査などを実施。（キーワード：山体崩壊、泥流丘、外来種、サイクルツーリズムなど）	後期火・4
須山 聡	E	豊年祭の参与観察	奄美大島宇検村佐念・部連集落	8月9～12日	旧暦8月15日に開催される年中行事である「豊年祭」を参与観察し、行事の運営や参加者の行動を記録する。佐念・部連はともに人口30人たらずの小さな集落であり、豊年祭の準備・実行の人手が足りない。単に祭りを見物するのではなく、豊年祭の担い手としての役割が期待される。住民のみならずとともに豊年祭に関わることで、集落の維持・存続に関する知見を得る。	後期金・4
西山弘泰	F	前橋・高崎の地誌的調査	群馬県前橋市・高崎市	10月および12月（1泊2日×2回）	東京から北に約100kmに位置する群馬県前橋市・高崎市を事例に調査を行う。文献や統計分析、現地調査から当該地域の自然環境や歴史・文化、産業、人口などの特徴を見出す技法を身に着ける。1回目の巡検では、大まかに2都市やその周辺の現況を把握し、2回目の巡検では、班ごとにテーマを設けて調査を行ってもらう。	後期火・4

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
鈴木秀和	B	自然の脅威と恵みについて考える	火山地域を中心に地形地質、水文、植生、風穴などの自然環境の成り立ちに加え、それを活かしたツーリズムや地域振興、自然災害への対応（防災対策）などについて文献購読を中心に学習する。また、関東近郊の火山地域（浅間山か箱根山）に出かけ、設定したテーマに基づき現地調査も実施する予定である。	水・2

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の自然と環境	鹿児島県屋久島町	10月または11月を予定	屋久島の気候についてテーマを決め、気候データの解析を中心に進めます。後期に、屋久島の自然と環境について調べたうえで、現地調査を行います。最後に、全部の調査結果を報告書としてまとめます。	水・4
鈴木重雄	C	栗駒山麓ジオパークの自然環境と人の関わり	宮城県栗原市	10月上旬～中旬の3泊4日	栗駒山麓ジオパークには、ラムサール条約登録湿地である伊豆沼から、稜線には雪田植生も広がる須川岳まで、標高に応じた多様な植生が存在する。授業では、それらの植生に加えて地形・気候・水文などの自然環境のほか、生態系を利用した産業などについて調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前には文献の講読を行い、調査計画を立案し、調査後は調査結果を報告書にまとめる。	水・5
田中 靖	D	土砂災害と復興まちづくり	広島市と周辺地域	6月中旬に3泊4日を予定	斜面崩壊・土石流・土砂災害・ハザードマップ・復興まちづくりをテーマとし、広島市の急傾斜地とその周辺を対象として調査実習を行う。レポートは班別にテーマを決めてまとめる。具体的には、数値標高モデル（DEM）による地形解析、現地測量、土質調査、扇状地上の土地利用調査、聞き取り調査などを行う予定。また、調査技術としてGIS、Pythonによる数値計算、AIを援用した画像解析などを学ぶ。	月・3
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	青森県下北半島東岸小川原湖とその周辺地域	9月末～10月初旬に3泊4日	小川原湖およびその周辺地域の環境問題、湖沼資源のワイズユースなどに関し地形・水文・植生・景観調査、また関連機関・団体・個人への聞き取り調査等を実施。（キーワード：仏沼・ラムサール条約、湖岸修復、シジミ・ワカサギ漁、海岸侵食、津波災害など）	水・4

*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。